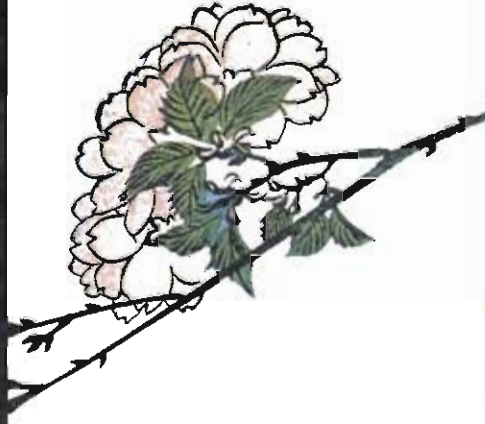




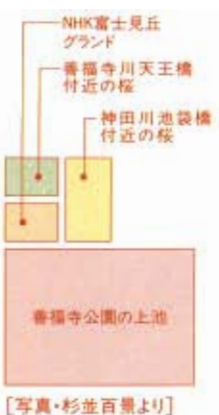
杉並景観録

創刊号

SUGINAMI Keikan-Roku



●発行日——平成7年3月30日
●発行——杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代)内線3515



- ① 善福寺公園の上池 (善福寺3-18)
- ② 善福寺公園の下池 (善福寺2-31)
- ③ 東京女子大学 (善福寺2-6)
- ④ 機械技術研究所跡 (井草4-14)
- ⑤ 下井草駅前の桜 (下井草2-44)
- ⑥ 観音寺のしだれ桜 (今川2-16)
- ⑦ 蓮華寺 (本天沼2-17)
- ⑧ 萩原税務署のうこん桜 (天沼3-19)
- ⑨ 東京衛生病院の桜 (天沼3-17)
- ⑩ 真盛寺の桜 (梅里1-1)
- ⑪ 王川上水 (久我山1・2・3)
- ⑫ NHK富士見丘グラウンド (久我山2-2)
- ⑬ 浴風園 (高井戸西1-12)
- ⑭ 神田川池袋橋付近の桜 (高井戸東2-30など)
- ⑮ 郵政省グラウンドの桜 (高井戸東1-16)
- ⑯ 三井の森 (高井戸東1-31)
- ⑰ 桜の坂道 (高井戸東1・浜田山2)
- ⑱ 王川上水第二公園の桜 (下高井戸3)
- ⑲ 善福寺川天王橋付近の桜 (成田西3-8など)
- ⑳ 善福寺川相生橋付近の桜 (成田西3-6など)
- ㉑ 善福寺川御供米橋付近の桜 (大宮2)
- ㉒ 和田堀公園 (大宮2など)
- ㉓ 済美教育研究所の桜 (堀ノ内2-5)
- ㉔ 神田川和泉小学校付近の桜 (和泉2-17)



櫻二十四景

「杉並百景」から
花の季節です。花といえは桜。大江戸・東京の花の名所は、上野、向島、飛鳥山……けれど、杉並も負けてはいません。善福寺公園の桜、神田川沿いの桜など……二年ほど前に選定した「杉並百景」は、その四分の一が桜のある風景です。このほか「杉並百景」の募集では、数多くの桜の推薦が寄せられました。

桜のある風景は、人々の心に深く刻まれているのです。

ひとつひとつが素敵です

杉並の桜には、つしみ深い趣があります。カラオケや大騒ぎの名所はありません。そのぶんだけ、ずっと身近で親しみがあります。私たちの日々の暮らしに、ごく自然に溶け込んでいる桜です。

そんな杉並の桜をのんびり眺めていると、忘れかけていた想い出がよみがえってくるようです。

櫻二十四景、ひとつひとつが素敵です。

[写真・杉並百景より]



大田黒元雄氏の著作
左「音楽遺稿」第一巻
中「音楽芸術史」(紙本)第一巻
右「洋楽夜話」音楽之友社

和風の門構えをくぐると、樹齢七十年を越えるイチヨウ並木が穏やかに私たちを迎えてくれます。



園内には、中央の明るく広がる芝生や池をめぐって、アカマツ、ケヤキ、シイなどの大木が

うっそうと繁り、ここがまちなかであることを忘れてしまうほどです。数寄屋造りの茶室、休憩所があるほか、赤紫色の外壁の洋館が佇んでいます。洋館は、氏の執筆活動の場で、いまでは、記念館となっています。

記念館は、昭和八年に建てられたもので、この中には、生前氏が愛用したピアノ、蓄音機などが残されています。

荻窪駅から徒歩約十分。開園は、年末年始を除く午前九時～午後五時。入園は、午後四時三十分まで。



大田黒公園は、その名称のとおり、大田黒元雄氏の屋敷跡を杉並区が日本庭園として整備し、昭和五十六年に開園したものです。面積約九千平方メートル。このうち約三分の一は、公園にしてほしいとの氏の遺志により、ご遺族から区へ寄付されたものです。

公園づくりにあたり、区では、できるかぎりもとの姿を保存するよう、整備・再現に努めました。



季節感あふれる日本庭園

私は、戦後、府立第十中学校(現・都立西高校)で五年ほど音楽を教えていたんですが、その後、N響(NHK交響楽団)に入りました。

一ケストラで演奏するの、などと話をしているうちに、家に遊びに来ないかということになったんです。大田黒さんは、売れっ子作家で、著作や翻訳も膨大な量をこなしていたわけです。家では、原稿を書いたりばかりでした。話がしたかったんじゃないですか。そこで屋敷を訪ねていったんです。大田黒さん目

身は、演奏家じゃないですから、N響の練習の方法や指揮者などについていろいろ聞かれましたね。当時は、N響の全盛時代で、ローゼンストックが指揮をとり、大変な人気だったんです。初演も多く、ストラヴィンスキーの「春の祭典」など三部作もそうでした。それから何回か大田黒さんの家に行きました。た

大田黒元雄さんとはとてもダンディーでした

とにかく整理・整頓しない。部屋は、洋書とレコードでごちゃごちゃ……すこいものです。でも、大田黒さんは、部屋のなかでもきちっとネクタイをしてとてもダンディーなんです。駅の近くへ買物に行くときでも中折れ帽。一見すると、学者のようどつつきが悪い感じなんですが、案外、シャイで気さくな人でしたね。



貝増善次郎さん/荻窪四丁目 Kaimasu Zenjiro

PROFILE
(かいます・ぜんじろう)
音楽家
武蔵野音楽学校本科、器楽科及び研究科卒業。現在、NHK交響楽団入団。日本指揮者協会幹事・事務局長、N響OB会幹事長、東京コレルリ室内合奏団常任指揮者として活躍するかたわら、地元の荻窪町会長をつとめる。



大田黒元雄

Otaguro Mutoo
PROFILE
(おたぐろ・もとお)
音楽評論家
1893(明治26)年1月11日生まれ。19歳のときイギリスのロンドン大学に留学。「バッハよりシェーンベルグ」のなかで日本にはじめてドビュッシーやストラヴィンスキーを紹介。60年余の評論活動をつづき、わが国の音楽の育成に努めるとともに、音楽評論の分野を確立した。「歌劇大辞典」「西洋音楽物語」など多数の著作・訳書がある。趣味も野球・相撲・推理小説と幅広く、その博識がNHKラジオ「話の泉」に活かされた。1979(昭和54)年1月23日没。



WHO'S WHO やさしい活気のあるまちにしたいですね

阿部光良・芳子さん



阿佐ヶ谷駅から東にのびるこの商店街は、病院や教会・神社などが近くにあって、普通の商店街とは少し違った雰囲気があると思うんです。でも、車が多くてゆっくり歩けないんですよ。早稲田通りへの抜け道になっているようなんです。試したに数えてみたら一時間に三百台もの車が通りました。時間制でも良いから歩行者専用道になればと思うんですが、

グリーンマーケットへおいでください
ここに住んで四十六年になりますけれど、昔はこの通りに桜があつて、春になると、桜のトンネルができたんですよ。今は一本も無くなつてしまいました。寂しいですね。

緑豊かな杉並と言われていますが、実際は緑が少ないと思うんです。そんなことで昨年の秋に、神明宮で「グリーンマーケット」を開催しました。二日間千人以上のお客さんが訪れ、大好評でした。小さな植木や園芸用品が随分売れ、緑への関心の高さを実感しましたね。今年も神明宮で、5月13日(土)・14日(日)に開催する予定です。

(あへ・みつよし よしこ)
・阿佐ヶ谷新進会通り商店街振興組理事長 夫人



すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION



杉並区は、東京都心の業務地域に対する郊外の住宅都市として市街化が進んできました。こうした杉並のなかでも、大田黒公園のある荻窪三丁目、四丁目などの界隈は、とりわけ、みどりの豊かなゆとりのある住宅地といわれています。

この界隈は、杉並区内の多くの地区と同様、明治から大正にかけては、東京市郊外



(西郊)の典型的な畑作主体の農村であり、都市に住む人々に青梅街道をつうじ新鮮な野菜を供給していました。

北西から南東へと流れる善福寺川に沿って、水田となっており、そこに北側から台地がゆるやかなカーブを描いて突き出る地形でした。台地の上の畑から川に向かう傾斜地は、都市の燃料の供給源である雑木林、松林となつて

の膨張に伴い、一帯の宅地化が進みはじめます。大正十年には、新宿・荻窪間に路面電車が開通。さらに、十二年の関東大震災によって市部からの人口流入は驚異的な数にのぼりました。

大正末から昭和のはじめにかけて、この界隈にも市街化を見越した土地区画整理事業が実施され、今日にいたる道路の骨組みが出来上ります。この界隈へ移り住んだ人々は、会社員

たのでしよう。

明治二十四年に甲武鉄道中央線の荻窪駅が開設されたこともあって、大正初期には善福寺川を見下ろす北側の台地の突端にくつかり別荘が建てられていたとされます。

豊かなみどり、歴史と文化の香り

大田黒公園 界隈

黒元雄、出版業を営むとともに優れた随筆家であった角川源義、など著名な人々がいました。いまでも、みどり豊かで落ち着いたこの界隈を歩くと、高いところを胸に、困難な時代を乗り越え創作活動を続けた人々のいぶきが伝わってくるような気がします。

まちの移り変わり

このような大田黒公園界隈も、近年、土地価額の高騰、相続の発生等による敷地の細分化が進み、建て詰まりやみどりの減少をはじめ、自動車交通の増大など、その姿を大きく変えようとしています。

そこで、杉並区では、平成二年度からこの界隈を対象に、魅力ある景観形成をテーマとする「大田黒公園周辺地区景観まちづくり」を地元住民の方々の参加を得ながら進めています。



いました。荻外荘(てきがいそう)近衛邸)や中央図書館付近にみられる林は、この名残であると思われまます。

東京西郊の別荘地

アカマツの林から南を眺めると、足元に川と明るい田圃が広がり、さわやかな風がわたっていき……そんな自然に恵まれた風光明媚なところだっ



写真はいずれも現在の大田黒公園界隈

N

E [杉並景観録] W

S

SUGINAMI URBAN DESIGN PRIZE



魚鐘(宮前2-11)第1回の受賞

素敵なまちかど教えてください

杉並
「まち」デザイン賞

杉並「まち」デザイン賞は、杉並の魅力あるまちなみづくりに貢献している建物や地域活動などを区が表彰するものです。

今年は、第5回杉並「まち」デザイン賞の候補の募集を6月から7月にかけて行います。皆さんが日頃から「素敵だな」とお感じの住宅、店舗、オフィスビルやこんな面白いことをやっているという地域の方々をご推薦ください。詳しくは、広報すぎなみでお知らせします。



下井草四丁目の長屋門(下井草4-12)第2回の受賞



東京都太田記念館(久我山2-16)第2回の受賞



天沼の歩道(天沼3-32)第3回の受賞

まち歩きのおすすめ

「知る区ロード」を楽しむ

区民の皆さんにはお馴染みの「知る区ロード」。ことしも「探検手帳」や「探検地図」を片手に杉並のまち歩きをお楽しみください。



すぎまるマガジン6をどうぞ

人気の「すぎまるマガジン6」は、これまでと趣向を変え、七人のまち歩きの達人たちによる『探検勝負』を掲載。形もコンパクトになりました。区政情報課(区役所西棟2階)で1部三百円で販売しています。



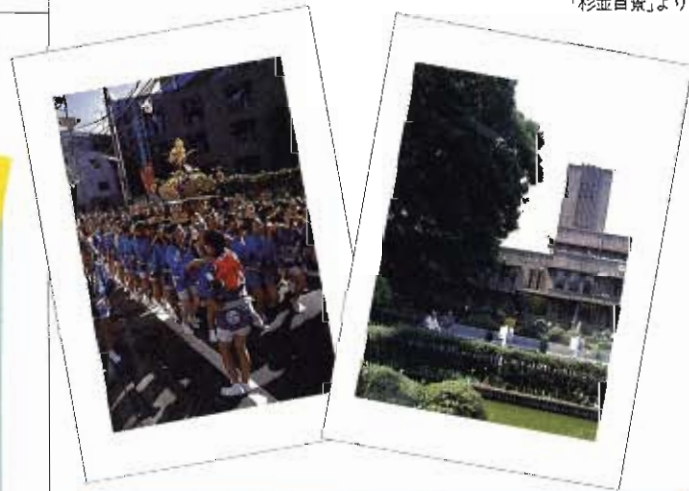
達人・猫柳あけみさんの「松ノ木商店街探検」『すぎまるマガジン6』より

杉並区の景観まちづくり

①杉並百景

区制施行60周年記念事業として、平成4年度に選定しました。おしゃれな風呂敷に包まれた絵はがき集は、1セット千円。区政情報課で販売中です。残りが少なくなりました。

「杉並百景」より



②地区の景観まちづくり

大田黒公園周辺、美しいケヤキ並木で親しまれている中杉通り周辺の二地区で、地元住民の方々の参加を得ながら、それぞれのまちの特徴を活かした景観まちづくりに取り組んでいます。

③まちかど修景整備事業

杉並区の新しい試みです。区内の小さな街角(まちかど)をより魅力あるものに変えることをめざしています。平成7年度は、候補地や整備の方法などについて調査を行う予定です。

すぎなみの絵はがき まちなみシリーズ4
高井戸のまちなみ

落ち着いた色調の絵はがき「高井戸のまちなみ」は、(財)杉並区まちづくり公社が昨年秋開催した「まちなみを描く会」の作品から四点を選び、2月に発行したものです。お友だちへのプレゼントに最適。官製はがきにカラー印刷・4枚1セット三百円。お問合せは同公社へ。電話3220-4351



創刊にあたって

春がやってきました。皆さんにお届けするこの「杉並景観録」は、区が新たに取り組む企画で、区民の皆さんへ年1回、杉並のまちの魅力や課題についてお伝えするものです。杉並のまちは、何の変哲もない、と言われがちです。しかし、ちょっと目を近づけたり、反対に、離れて見たりすると、その懐(ふところ)の深さが見えることがあります。私たちは、「杉並景観録」をつうじて、杉並のまちの多様な美しさ、豊かさについて、皆さんと一緒に考えていきたいと願っています。皆さんのご意見をお寄せください。